

3章 美園の魅力

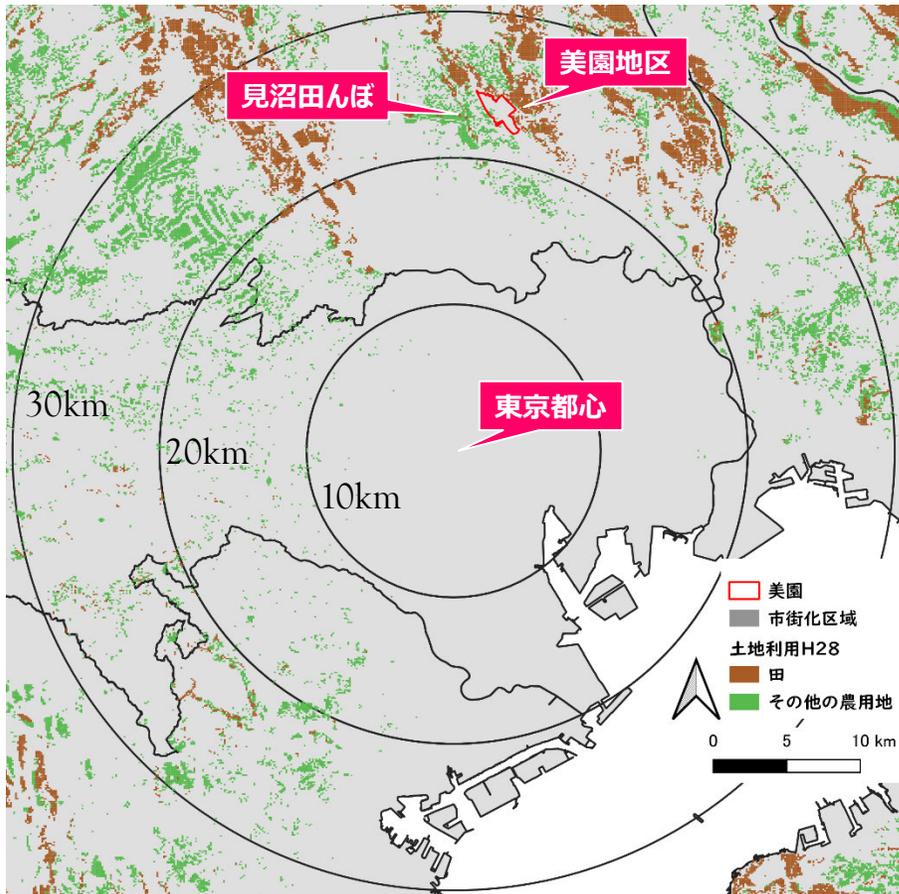
「自然」・「まち」・「人」の切り口から見た美園の魅力



“市街地”と“田園”のフロンティア
ヒューマンスケールの身近な水辺

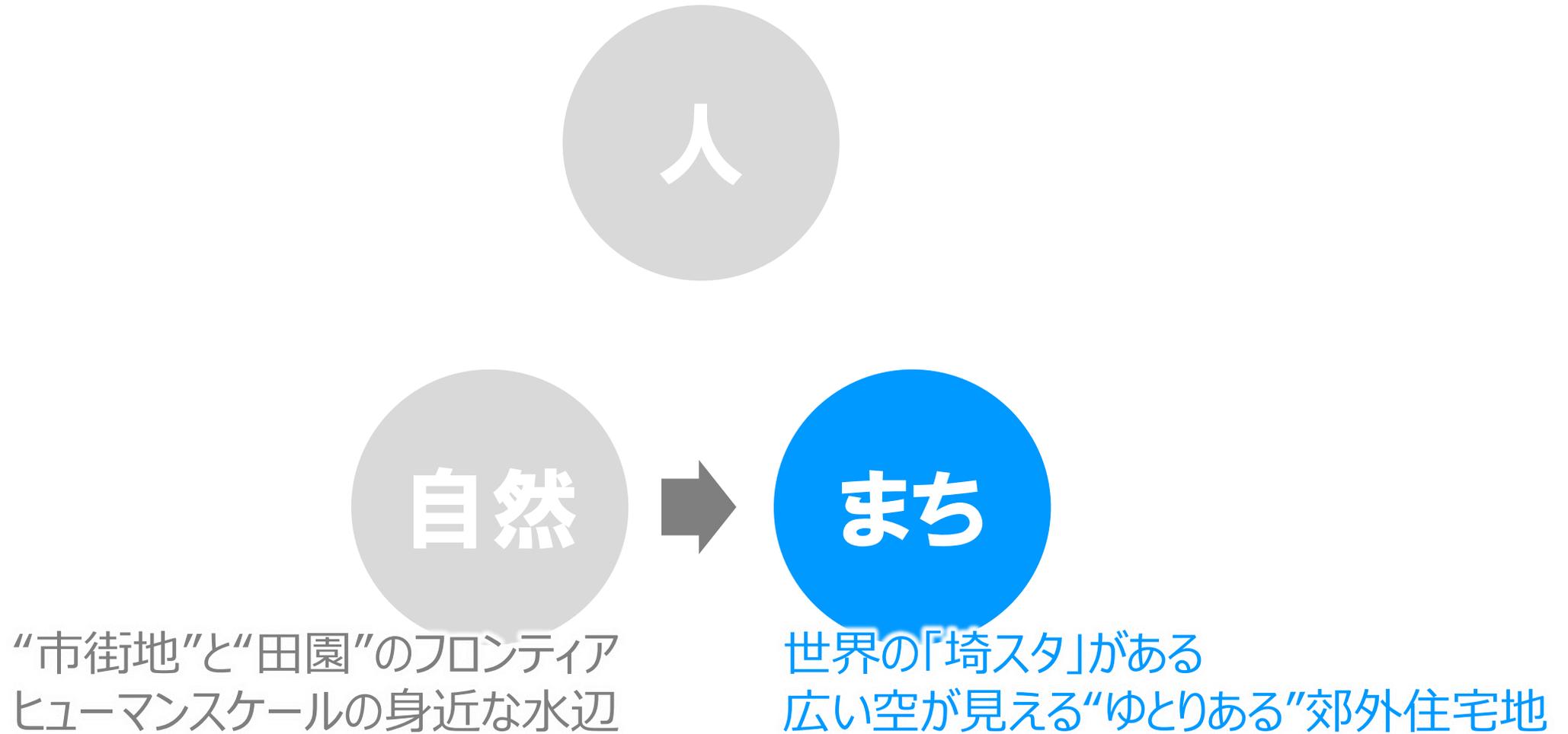
“市街地”と“田園”のフロンティア

- 新市街地周辺では、東京都心から30km圏内では非常に貴重なまとまった田園が広がる。
- 古くから苗木・植木が盛んで、今も武蔵野の原風景が残る。
- 江戸時代には日光御成街道の宿場町「大門宿」が栄えた。
- 「美園」の地名は、1956年に3つの村が合併して誕生した「美園村」がルーツ。

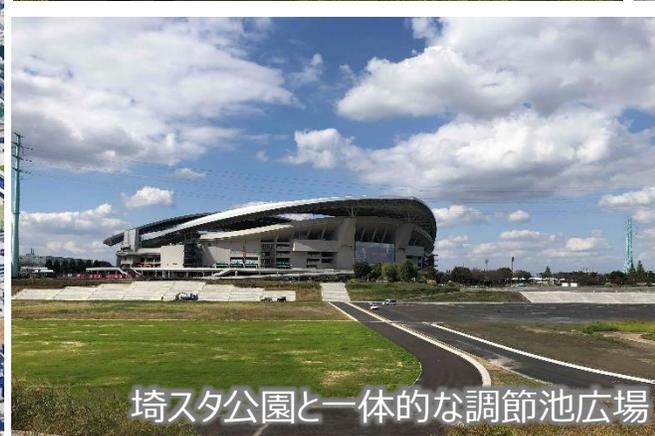


- 住宅地を流れる綾瀬川。コンクリートで固めていない**自然の水辺が身近に**。
- ただし、浸水想定への配慮は必要。





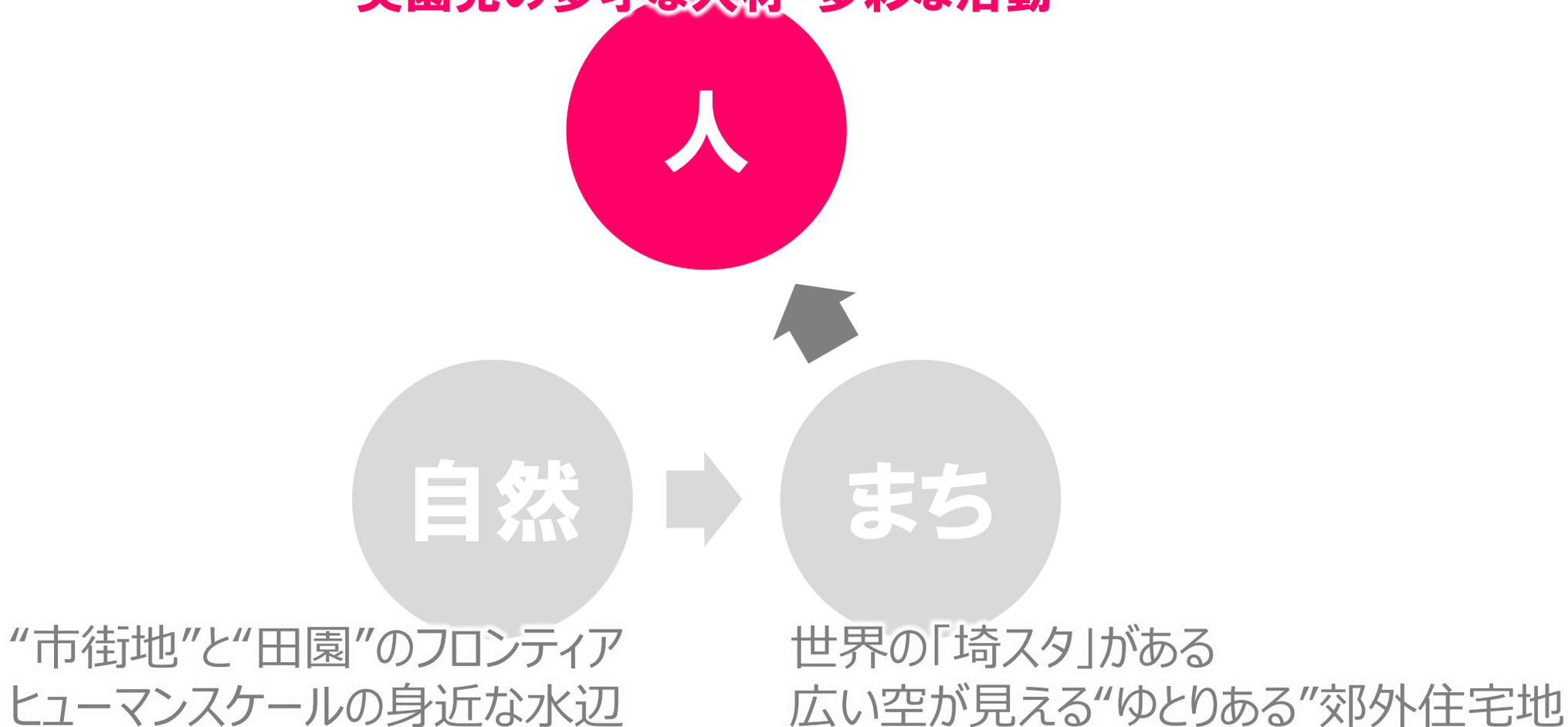
- 2002FIFAワールドカップにつづき、2021年には東京2020大会の会場としても予定。浦和レッズのホームスタジアムとして、毎年数々のドラマが生まれている。
- 公園機能として広場等も有し、隣接する調節池と一体で広大なオープンスペースを形成。



- 広幅員の道路や電線類地中化、建築に対する規制・誘導などにより、**空の広い開放感**ある街並みが自慢。東京都心のような忙しなさがなく、**落ち着いた時**が流れる。
- 環境に配慮し、**先進技術を取り入れた住宅モデル街区**が複数立地。
- 一方、「埼スタ」でのサッカー開催時には、**情熱的な顔**も見せる。



浦和レッズをはじめとしたスポーツのソフトインフラ
美園発の多才な人材・多彩な活動



- 埼玉スタジアムに本社を構える“浦和レッズ”をはじめとし、プロ卓球チーム“T・T彩たま”（美園に卓球ステーションを開設）や、総合型地域スポーツクラブ“浦和美園SCC（通称：うらら）”といったスポーツのソフトインフラが存在している。
- また、水泳日本代表選手の所属するスイミングスクール“スウィン浦和美園”が立地している。



- 農業、苗木／植木産業を営み、古くからの伝統を守り・育て・伝える人、美園の地域資源を生かし新たな事業に取り組む人（起業家）など、様々な人材が美園で奮闘中。
- 今や各地に普及した「Hello Cycling(シェアサイクル)」は、美園での実証事業から全国展開。



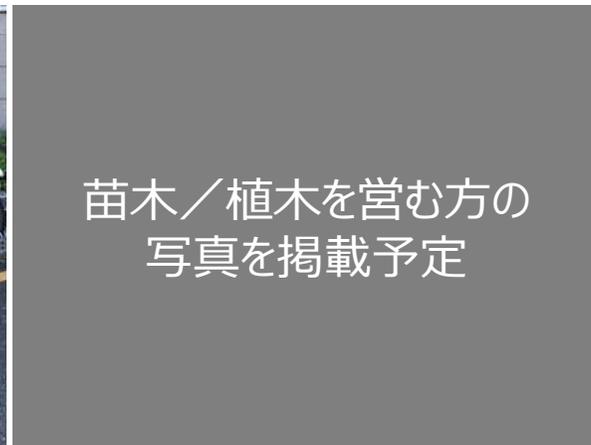
見沼田んぼの農家



農家の方による農業実習



(浦和美園駅東口)
Hello Cyclingの市内初ステーション



苗木／植木を営む方の
写真を掲載予定



世界をもう一度、
発酵ジンジャーエールに熱狂させる。
Make the world buzz about ginger beer
again.

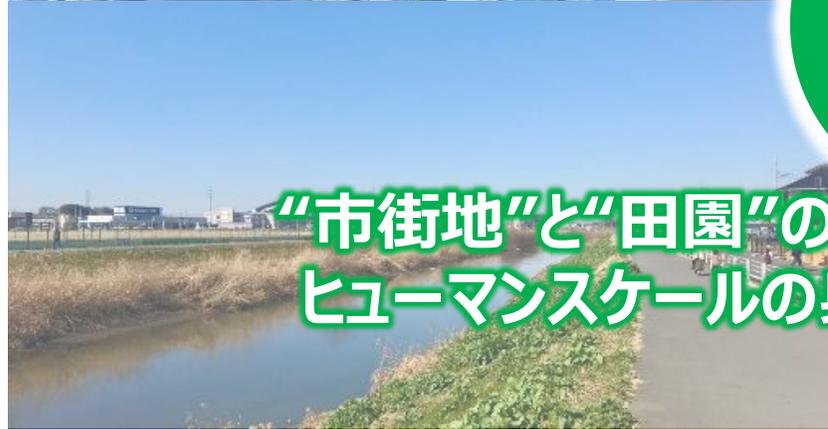


その結果、
埼玉で見沼田んぼが復活する。

6次産業の起業

- 地域で作り上げる「浦和美園まつり&花火大会」を2015年から開催（例年10月末頃）。
- 埼玉高速鉄道貸会議室を活用したカルチャースクールや、地域のママさんによるマルシェ活動等も展開。
- 古くからの**伝統をつなぐ活動**も展開されている。





4章 将来像

理念:世界に誇れるスタジアムタウンの実現

浦和レッズをはじめとしたスポーツのソフトインフラ
美園発の多才な人材・多彩な活動

将来像2

伝承と先端技術が織り成す
美園版“アーバンビレッジ”

将来像1

埼スタを核に、過ごす人がおのずと
“Well-being”になるまち

自然

“市街地”と“田園”のフロンティア
ヒューマンスケールの身近な水辺

まち

世界の「埼スタ」がある
広い空が見える“ゆとりある”郊外住宅地

将来像3 まちが自然に溶け込む究極の“グリーンインフラ”

- 美園は「埼スタ」を始めとした公園・広場や、広い歩道・綾瀬川遊歩道などの“フィールド”と、浦和レッズなどのスポーツのソフトインフラに恵まれている。さらに、医療・福祉・文教拠点の土地利用が今後進む見込みとなっている。
- 健康長寿が期待される人生100年時代の到来をチャンスと捉え、こうした美園に現に存するリアルなまちの環境やコンテンツを最大限有効活用し、今後提供が進むであろう、先端技術を活用した健康・医療・福祉サービスを組み合わせながら、美園で日々を過ごすだけで、おのずと“Well-being”になるようなまちを目指す。

* Well-being : 身体的・精神的・社会的に良好な状態 (WHO;世界保健機関)



Image via Visit Houston/Jonnu Singleton/SWA Group



<https://blog.mypacer.com/2019/10/11/how-fast-is-the-average-walking-speed-brisk-walking-pace/>

出典 : PIXTA

- 美園は、市街地に田園が食い込み、都心から比較的近いところで接する、フロンティア(最前線)に立地している。こうした立地を活かし、採れたて野菜を日々の食卓に採り入れ、また“空を眺める”・“土をいじる” など、東京都心とは異なる、豊かな暮らしが実現できる。
- 美園の「農」は、大消費地と自然を求める都心居住者を間近に抱える。先端技術の活用により、植木文化などの伝承や牧歌的な観光資源としての魅力を保ちつつ、高付加価値の多面的な展開が期待される。
- デジタル化が進んでも、東京都心に近く、東日本各地からもダイレクトにアクセスできる立地の優位は揺るがない。利便性と身近の豊かな自然を“いいとこどり”し、空間的にも時間的にもゆとりある環境で働き、暮らせるまちを目指す。

*「美園版アーバンビレッジ」とは、“農”や“植木”などの長年の歩みと、美園発の産業や先端技術とが融合し、訴求力のある新たな価値や持続可能なコミュニティが育まれるような、市街地と田園のフロンティアである美園特有の文化を醸成していく事を称す造語。



https://www.city.saitama.jp/006/014/009/005/p063439_d/img/017.jpg



経済産業省作成資料「自動走行ロボットの社会実装に向けて(平成31年3月)」より

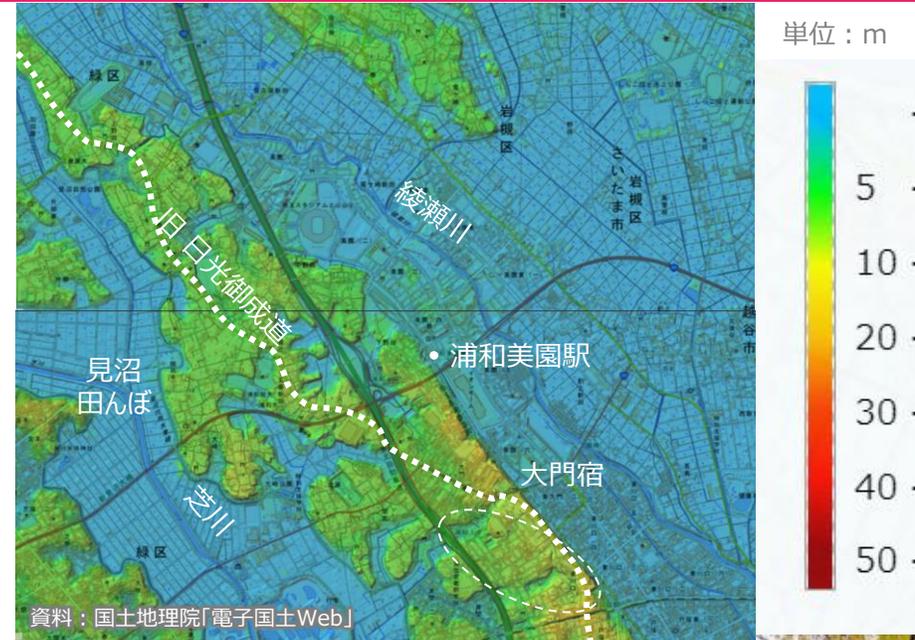


出典：PIXTA

出典：PIXTA

- 美園は、綾瀬川と芝川に挟まれた細長い台地をたどる日光御成道沿いの集落と、両河川沿川の田園で形作られてきた。この地形構造を記憶に留めながら、川に沿った“風のみち”や見沼の貴重な環境資産を未来へ継承していく。
- 地区内に複数整備された調節池や広域災害時の拠点となる「埼玉スタ」など、“有事に役立ち、平時にやさしい”施設の機能を磨き、育てていく。
- さらに美園は、最新の環境技術をまちに実装してきた実績があり、今後も環境分野のフロントランナーとして、ゼロカーボンの大きな目標に向けてまち全体が貢献できるような、究極のグリーンインフラ*となることを目指す。

*「グリーンインフラ」は、米国で発案された社会資本整備手法で、自然環境が有する多様な機能をインフラ整備に活用するという考え方を基本としている（国土交通省環境政策課「グリーンインフラストラクチャー～人と自然環境のより良い関係を目指して～」）



申し訳ございませんが、現在作成中となります。
(3月10日頃に追加で公表予定)